

「新しい東北」官民連携推進協議会

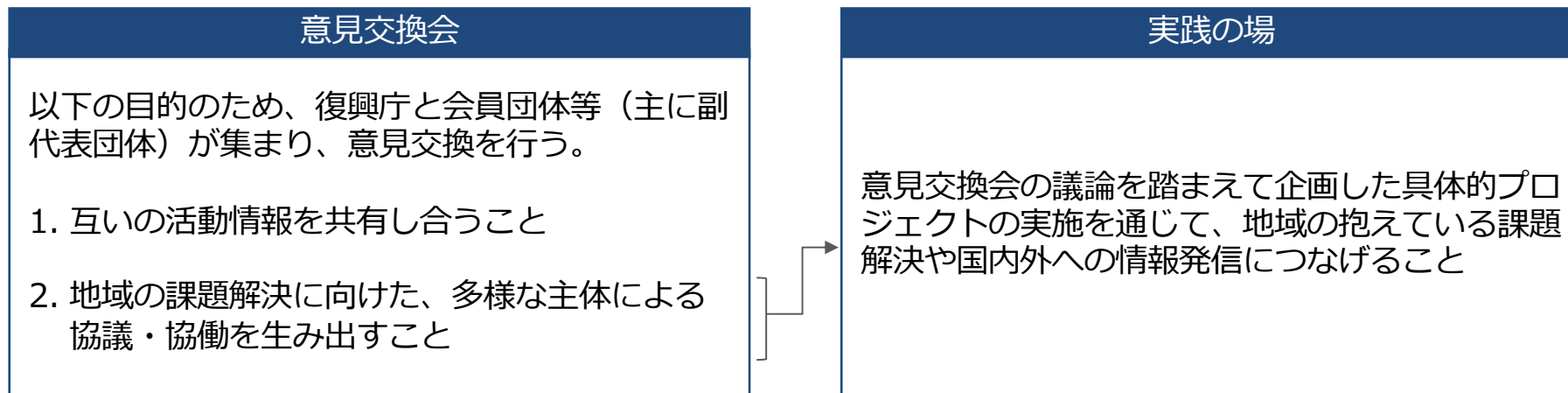
令和5年度
意見交換会(第1回)

岩手県

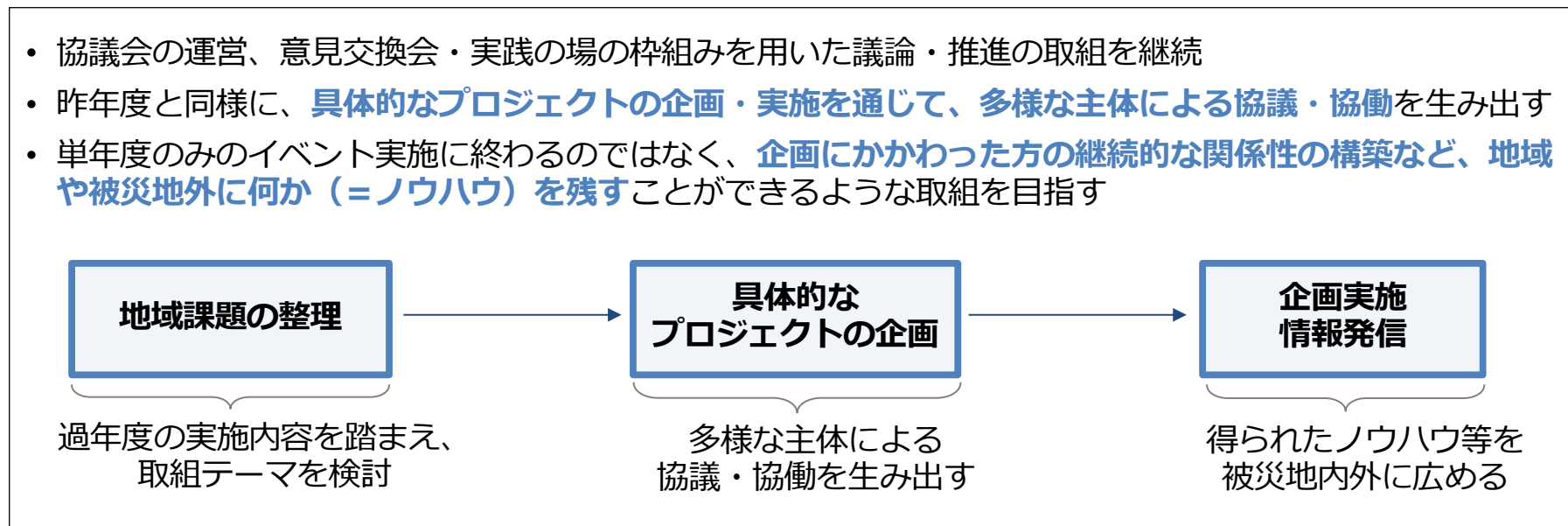
「新しい東北」官民連携推進協議会事務局
2023年5月18日

1. 意見交換会・実践の場の全体像

■ 意見交換会・実践の場の位置づけについて

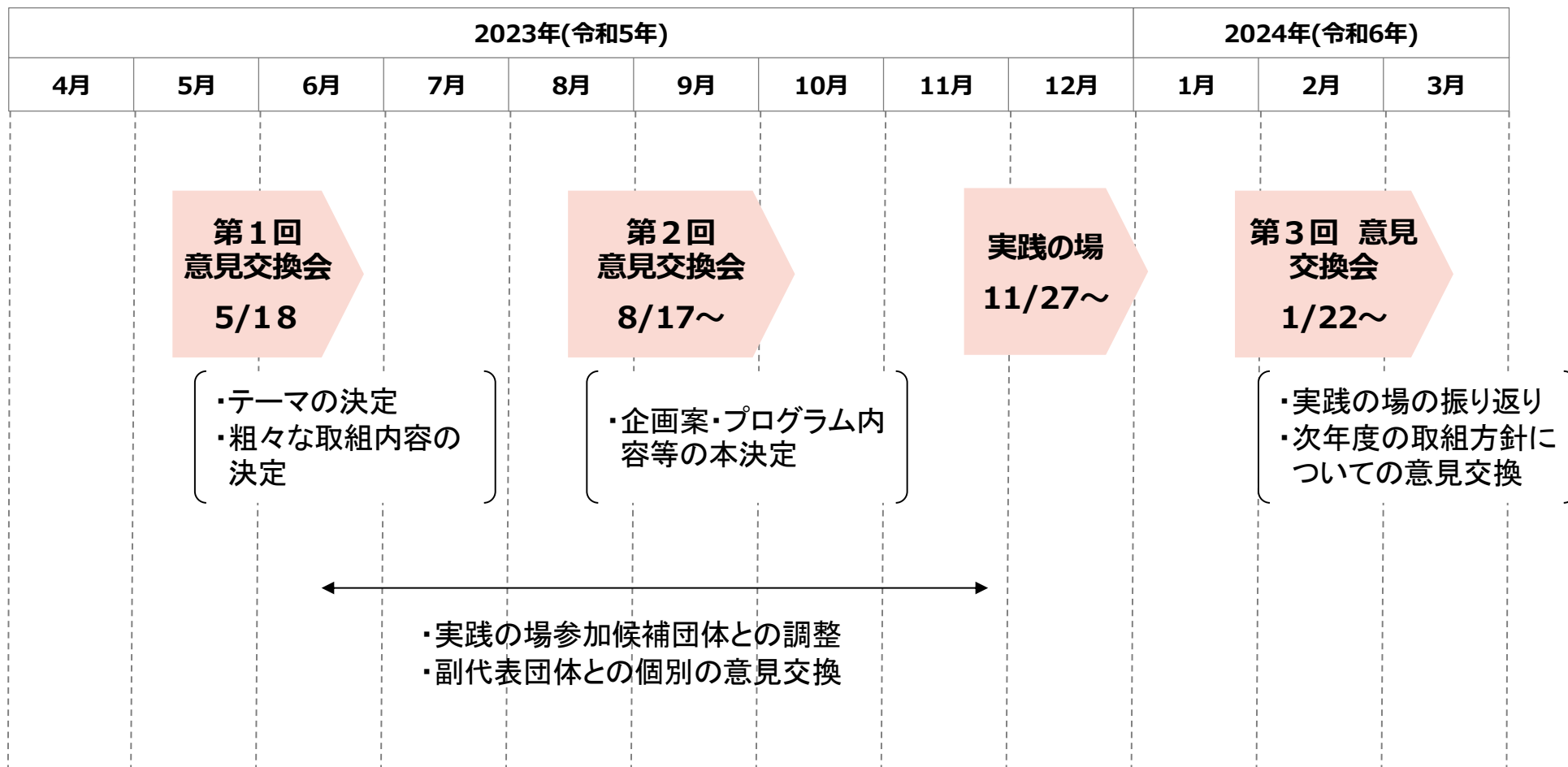


■ 今年度の進め方について



● 2. 意見交換会・実践の場のスケジュール

■ 今年度の意見交換会・実践の場のスケジュール



※ 今後の議論状況等により、変更の可能性あり

● 3. 過年度実施状況：全体像

- 岩手県のこれまでの取組では、「**関係人口の増加**」に着目して取組を実施
- 令和4年度の意見交換会・実践の場では、2023年のG7、2025年の大阪・関西万博、各種MICE等を見据え、**みちのく潮風トレイルを活用した、沿岸部のエクスカーションプログラム**を検討

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
テーマ	関係人口の増加	関係人口増加から生まれる価値と、関わりを生むためのプロセス	三陸沿岸の地域経済の担い手支援	東日本大震災から10年目にあたって	関係人口を活用した集中的な地域の魅力の磨き上げ、PR、モデルづくり	関係人口を活用した持続可能な地域づくり
実践の場	ラグビーワールドカップ釜石開催PRイベントの開催 「岩手三陸地域における関係人口の増加に向けた調査」の実施	「関係人口×〇〇で考える三陸の未来」（宮古市） ブースセッションとパネルディスカッションによって、複数の切り口から、関係人口増加の価値や関わりを生む仕掛けづくりを紹介	「さんりく事業成長セミナー・交流会～オール岩手で経営層をサポートします～」 （大船渡市） 企業やNPOなどの現役経営者および大次世代リーダーに対して、行政と民間支援機関が連携して事業成長を支援するため、支援策の特徴や活用事例を紹介するセミナーと交流会	「いわて沿岸とつながる交流会 - これまでの10年を未来の力に -」 （陸前高田市） これまでの復興活動の思い出や、伝承していきたい大切な記憶・教訓を振り返り、共有し合い、また、教訓・つながりを活かして今後取組たいことや目指したいことのアイデアを共有	「釜石の今と未来を考える 座談会」 （釜石市） 地域の課題に挑戦している事業者の（有）宝来館 代表取締役社長 女将 岩崎 昭子氏とともに、地域の今までの歩みやこれからの発展について協議。これら協議の結果に関する意見交換をする場として「釜石の今と未来を考える 座談会」を開催。	「みちのく潮風トレイル体験から三陸沿岸地域の復興の姿を知るエクスカーションプログラムモニタリングツアー【宮古コース編】」 一般社団法人 浄土日和とともに、みちのく潮風トレイルを活用し、行政関係者や学者、研究者など知識層を主なターゲットとして想定した、モニタリングツアーを実施。

● 3. 過年度実施状況：令和4年度の取組詳細

令和4年度の実践の場の企画内容

【背景】

- 2023年のG7、2025年の大阪・関西万博、各種MICE等により国内外から東北を訪れる方が生じる機会をとらえ、**岩手県沿岸部のエクスカーションプログラム**を検討。
- 具体的には、**一般社団法人 浄土日和**とともに、**みちのく潮風トレイルを活用**し、行政関係者や学者、研究者など知識層を主なターゲットとして想定した、モニタリングツアーを実施。

【目的】

- モニタリングツアーの**コース自体に関する評価・ブラッシュアップ**
- 同じコースを体験した自治体、旅行会社、現地の事業者等の**ネットワークづくりと課題の共有**

みちのく潮風トレイル体験から三陸沿岸地域の復興の姿を知る エクスカーションプログラムモニタリングツアー【宮古コース編】

- 日時：2023年1月19日（木）・20日（金）
- 場所：岩手県宮古市
- 行程：
（1日目）
盛岡集合・宮古にバス移動－浄土ヶ浜レストハウス・「浄土ヶ浜」見学・宮古うみねこ丸乗船－みちのく潮風トレイル－浄土ヶ浜デジタルセンター（1日目プログラム終了）

- （2日目）
宮古市内ホテル発バス移動－田老学が防災「震災学習・防災エコツアー体験コース」体験－参加者による意見交換（2日目プログラム終了）

- 参加者：30名（うち、招待者15名、浄土日和2名、県・連携復興センター5名、復興庁・復興局8名）、他事務局



今年度の取組に関する議論内容（令和4年度第3回意見交換会）

- 「**関係人口**」というテーマや「**人が実際に足を運んでくれるプログラムを通じての情報発信**」という方向性については、**一定の同意**
- 一方で、引き続き「エクスカーションプログラム自体の造成」に取組むかについては、以下のような意見もあり、引き続き検討とされた
 - ・ 情報発信の方法として、エクスカーションも1つあると思うが、**協議会として取り組む意義を整理しつつ、他のやり方を探ってはどうか**
 - ・ **R4年度の取組で見えてきた整備・強化していかなければ課題**に取り組んではどうか
 - ・ エクスカーションプログラムそのものではなく、**そもそもプログラムを提供できる人を増やすなどの土台作りが必要**ではないか
 - ・ 国外・県外の方を呼び込む前に、**沿岸と内陸の関係性が希薄になっていることも課題**であり、内陸の人たちが沿岸のことを知る取組を進めてはどうか

● 4. 今年度の取組テーマについて

論点1

今年度については、「沿岸と内陸部を繋ぐ」ことを取組テーマとし、以下のような視点をもって企画を検討してはどうか。このほか、今年度の実践の場で取り組むべき課題・取り入れるべき視点は何か。

これまでの取組等から 見えてきた課題

- ・内陸－沿岸間の物理的距離
- ・震災から12年間経過する中での、内陸－沿岸間の関係の希薄化(心理的距離)
- ・若者や女性の県外流出・県内移動(沿岸部→内陸部)
- ・震災から12年間経過する中での、特に若年層における震災の記憶の風化
- ・地域のプレイヤー不足
- ・県全体のプレイヤー・観光資源が一元化されて見える形になっていない
- ・地域プレイヤー間の連携不足

機会

- ・復興道路・復興支援道路の全線開通による交通の利便性の向上
- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行等に伴う観光需要の復調
- ・盛岡の観光需要の増大(NYタイムズ 2023年に行くべき52か所への選出、WBCでの岩手県出身選手の活躍など)

課題解決・機会を活かすために 考えられる視点

- ・「沿岸と内陸部を繋ぐ」ことを取組テーマとした企画の検討
- ・若者や女性を巻き込んだ企画の検討
- ・取組を通じた、地域のプレイヤー・観光資源の洗い出し
- ・一過性ではない、今後の継続的な地域のプレイヤー間の連携の創出につながるような企画の検討
- ・内陸の方を沿岸部に実際に連れてくるような企画の検討
- ・今後、国内・海外から岩手内陸部に訪れた方にもアプローチできるような発展性・継続性

● 5. 今年度の取組内容について

論点2

粗々な取組内容を検討・決定するに当たり、以下の点についてどう考えるか。

- ① **プログラムのターゲット・沿岸部の事業者の関わり方**をどのように想定し、関わってもらうのか。
 ※ 「沿岸と内陸」をつなぐ企画を考えるとした場合、**ターゲットとなる内陸の参加者**の明確化が必要。また、**事業や体験を提供する沿岸部のプレイヤーの関わり方**の整理が必要。
- ② ①のプレイヤーに応じて、**どのようなプログラム**で交流を生み出すのか。
 ※ 事業の継続性・実効性を意識すると、**県内ですすでに行われている関係人口創出に向けた取組**と何らかの連携を行うことが効果的か。

① プログラムのターゲット・沿岸部の事業者

内陸	<p><検討の軸></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沿岸部へのもともとの関心の程度（関心が薄い方を呼び込むためには誘引性の高い企画が必要） ・ プログラムへの関わり方（単なる参加とするか、より積極的な関与を求めるか） ・ より積極的な関与を求める場合は、その拠点（例えば、大学、若者カフェなど） <p><想定されるターゲット></p> <p>岩手大学の学生を始めとした県内の大学生、若手の社会人、イベント自体に関心ある方を広く公募 等</p>
沿岸	<p><検討の軸></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沿岸部の事業者の関与の程度（主体的にプログラムを検討・企画するのか） ・ 内陸の参加者との交流の程度（プログラム当日のみの交流とするか、準備段階からの交流とするか） ・ 沿岸部の事業者間をどう連携させるか（事業者が参加するプラットフォームの作成、地域コーディネーターや観光協会等による仲介） <p><想定されるプレイヤー></p> <p>観光協会、事業者（地域のNPO・一般社団法人、ホテル・旅館等）、観光コーディネーター、県、市町村 等</p>

② プログラムの内容

旅行、視察、ワークショップ、インターンシップ、フォーラム、研修、スポーツイベントなど

● 5. 今年度の取組内容について

■ 事務局案（議論のたたき台）

(案1) 「内陸－沿岸部」の交流促進に関するスポーツイベントの企画・プラットフォームの創出	
主なターゲット層：岩手沿岸部への関心の程度に関わらず、スポーツイベントに興味のある人、その家族・友人 繋がり・連携を生み出すプレイヤー：内陸・沿岸部の観光協会、事業者（ホテル・旅館、道の駅、地域のNPO・一般社団法人等） 同士、県、市町村	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 民間団体が企画する盛岡－宮古間をつなぐランニングイベント・サイクリングイベントの企画を支援（盛岡－宮古を移動すること自体がイベントに）
目的	<ul style="list-style-type: none"> 沿岸部に関心が薄い層も含めて、沿岸部を知ってもらう メディアへの発信を通じた広報効果 地域内外から参加者とその家族・友人が訪れることによる観光消費効果 イベント実施を通じた地域プレイヤー間の連携・協働の土台作り
協議会の役割（案）	<ul style="list-style-type: none"> 「内陸－沿岸部」の交流促進等に関するフォーラムの開催 民間団体単独では実施が困難な調整等を担う、官民連携のプラットフォームづくり 民間団体が企画するイベント開催（現実的には、R7年夏頃か。）に向けたロードマップの策定 イベント開催に向け、イベントの実施や協議会として行うサブイベントの企画 イベントの周知・広報
(案2) 岩手県内の学生・若者が考える「今の復興の姿を知る、三陸沿岸学び旅・交流プログラム」	
主なターゲット層：岩手県内の学生・若者 繋がり・連携を生み出すプレイヤー ：学生・若者と沿岸部の事業者・観光協会、学生・若者同士、沿岸部の事業者（アクティビティ等の提供団体）・観光協会と観光コーディネーター	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 岩手県内の学生・若者に「今の復興の姿を知る、三陸沿岸学び旅・交流プログラム」を検討してもらう 学生が検討する際には、机上での議論に加え、現地事業者とのオンライン・対面MTGも実施 実践の場では、盛岡市内の学生や若者を募集し、10名規模のツアーを開催
目的	<ul style="list-style-type: none"> 内陸の学生・若者をターゲットとして、沿岸部を知ってもらう プログラムの策定を通じた地域プレイヤー間の連携・協働の土台作り 学生・若者が行程を検討するに当たっての材料として、地域の観光資源等をリストアップ
協議会の役割（案）	<ul style="list-style-type: none"> 地域の観光資源等のリストアップ、学生・若者に対する情報提供 実践の場の参加者募集、情報発信、現地手配、運営補助等 参加者に対するアンケート収集と分析内容についての、関与した事業者へのフィードバック 将来的な副代表団体の関わり方の検討